

なつばえ

夏映・なつめく 栽培ポイント

2024年

そうか

ほうみ

蒼夏142-121・豊美1号 2号

埼玉原種育成会 福島事務所

- 福 富 トンネル・夏秋 早生タイプ 枝発生良く果形安定し (元肥 追肥多めに)
- 夏 映 トンネル・夏秋 枝発生良いが蒼夏より大人しい ウィルス 炭疽に強い
- 蒼夏142 トンネル・夏秋 多収 果形安定タイプ 蒼夏121は樹勢やや強く (142より果長若干短い)
- なつめく 夏 秋 樹勢良く ウィルス耐病性で 蔓持ち良く果形やや長め
- 豊美1号 夏 秋 ウィルスに強い省力タイプ (2号は、1号より樹勢やや強く 果長が長め)

1. 圃場準備

- ①土壌病害対策 根腐病(クビク処理) 根腐病(ネキック ネトリエス) 等
- ②PH 6.5以上に 石灰や苦土 微量要素を施用し 酸性の発病土壌にしない
- ③ECを高くしない 窒素に偏った施肥 速効性は控え、緩効性 肥効調整型の施肥
- ④リン酸過剰にしない 過剰なら元肥 追肥にリン酸を入れない
初期の活着や樹勢低下時のみ Pの液肥施用
- ⑤有機質施用 堆肥は家畜のきゅうり肥控え ワラやモミ殻の堆肥で肥料分少ない有機質を入れる
- ⑥排水対策 暗渠や明渠 プライヤーなどを行う
地下水位高い所は酸素供給剤(カハカリ 林ハワー5)等を入れておくと良い
- ⑦灌水対策 点滴チューブ 灌水チューブを設置し 日射量に合わせて施用出来ると良い
- ⑧耕耘は、土壌水分が適湿の状態で行い大きな土塊にしない。

2. 施肥

- 耐病性品種ですが 樹勢が落ちると十分な特性が発揮されません
- 基 肥 連作圃場やリン酸過剰の場合は、土壌診断に沿って施肥し 液肥で樹勢調整
- 蒼夏 福富 N成分 20~30 kg/10aを目安 (クビク処理圃場は、およそ10~15kg/10a)
- なつめく 豊美1・2号 N成分 10~15 kg/10aを目安(肥料が多いと肩張り 短めに成り易い)
- 元肥型の追肥 (クビク処理圃場は、マルチ内に穴肥)
10~13枚(土寄せ)に5~10kgと 収穫開始20日後くらい(外敷きワラの下)に5~15kg
元肥に使う 緩効性のポカシ肥 低度化成 DFG LPコートなどを使用
その後25日ごとに N成分で3~5kgにできると良い

3. 樹作り

活着促進

- ①購入苗の管理 苗が届いたら箱から苗を出して確認(ハズ)に並べ暖かい水を灌水 2~5日馴化
定植前にポットで薬剤処理(ハリマクSC. エントロアブル. プリオリ粒剤など)
植え痛み防止の保護栄養剤散布(トハロス プロテックα) どぶ漬け(薄い液肥や発根剤)
- ②樹作りは、肥料でなく根張り優先の管理で行う
- ③活着 までは、雨の日も株元灌水は行い、ベット肩も灌水しベット全体の土壌水分を確保する。
ベット作りゴロゴロ土で活着不良 最初の耕耘の土壌水分注意し培土で補充が
完全活着(節間長8cm 葉20cm以上)までは、株灌水を毎日7~14日続ける。(特に購入苗)
株元灌水に、薄い有機液肥や発根剤を5~7日おきに入れる 福富・蒼夏は、葉色良く淡くしない
- ④防風対策 定植前に防風ネット設置 圃場周囲にソルゴー

4. 仕立て方

なつめく 夏映 蒼夏 142・121 福富は、1本仕立て基本だが株間により2~3本仕立て
 豊美1.2号 は 2本仕立てを基本
 2本仕立ての側枝利用位置は樹勢に合わせる 株間は、75~85cmを基本に90~100cm

手入れ

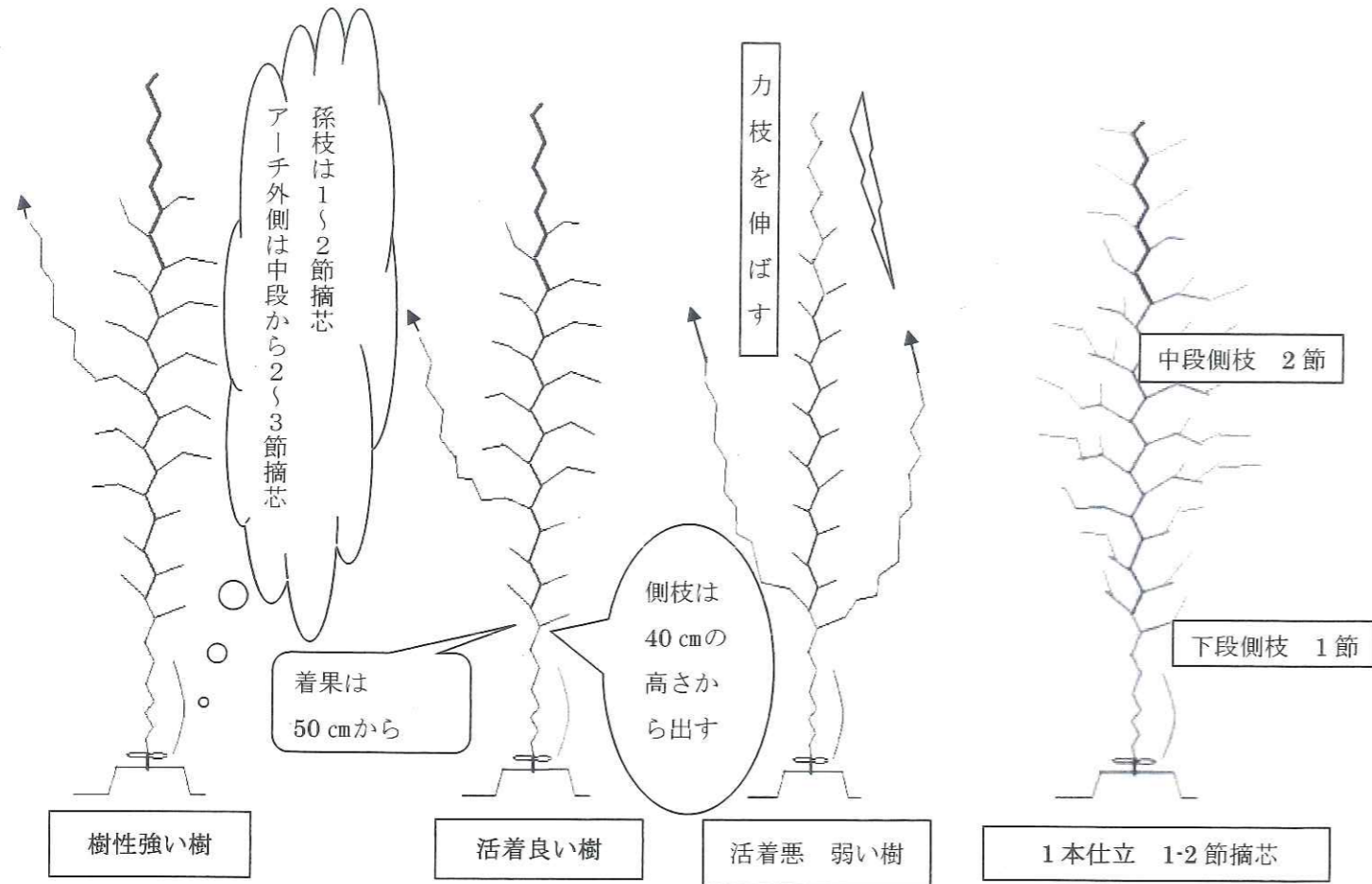
最初の側枝は、ハットから40cmの高さから出す **節数では、ない** 脇芽は1葉半前に小さいうちに取る

着果は、ハットから50cmの高さ 樹勢により調整

10枚で子葉と第一葉 収穫初めに更に2~3枚 主枝摘芯前40cmまで葉をとる

摘芯の大きさ 指先で摘み(芯が手のひらに収まる大きさ) 長く伸びた枝を強摘芯しない

摘葉 アーチの内側を優先し 収穫の終わった葉で 下から出る孫枝に被る葉を取って行く



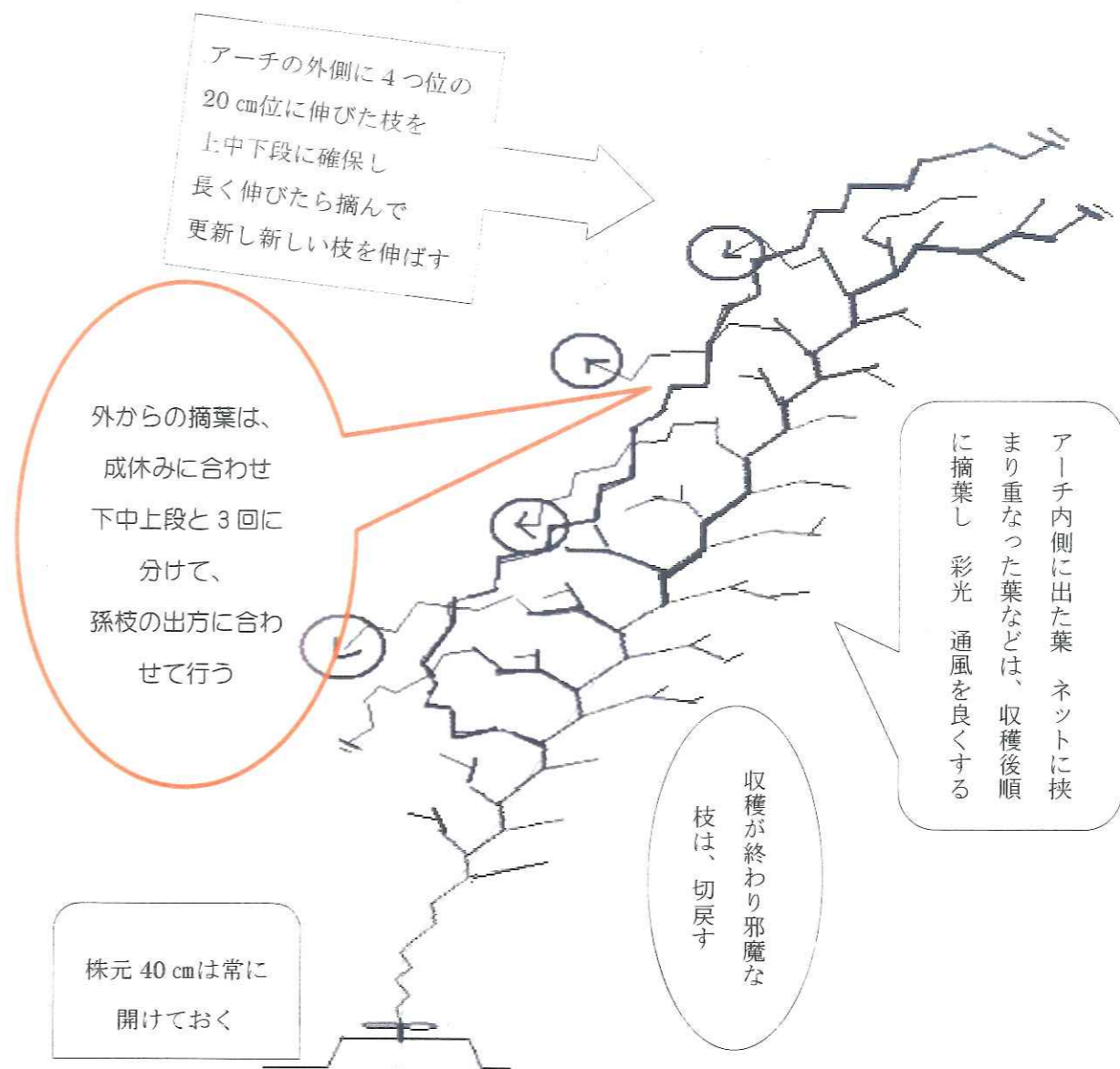
豊美

なつめく 夏映
 蒼夏 福富

長期収穫の為に

収穫最盛期からは、根の動きを止めない管理

枝の動きを止めない 成長点の確保 アーチ外の立枝と アーチ内側に見える吹き枝
 土壌水分の確保 干ばつでも最低限の水分を確保する 株元灌水 通路流し水 土壌灌注
 梅雨明け前に込ませない手入れ 梅雨明け時にオーバーワークさせない 追肥し過ぎない 灌水
 高温時の萎れに注意 プロテックα トルボス 豪雨での酸素供給剤とアミノ酸
 雨が続く7月下旬と8月下旬に石灰を現物で40~60kgベツト肩 通路散布
 8月中旬以降の樹勢維持 灌注(発根剤と薄い液肥) 葉面散布
 最後の追い込み を 見極める



支柱肩の親葉の摘葉は 枝が25cm以上伸びた節から行う

収穫しながら アーチ内の葉は、順次摘葉 外側は、成り休みに上中下段に分け摘葉
 雨でも 小雨なら手入れを休まない

5. 追肥 灌水

肥料切れさせない しかし **追肥の ドカ肥え禁止**

定期的追肥	収穫開始から 20日ごとに N成分で3~5kg 緩効性のボカシ肥え 低度化成 ロング LPコート などで追肥 穴肥え
速効性の追肥	成りこんでいる時 150kg/10a以上 3日ごとに N成分1~2kg NK化成 S646 などの振り肥か 液肥灌水
土壌灌注	樹勢維持 成り疲れなど 1株1~2l 液肥300~500倍くらい 発根促進剤 酸素供給剤も液肥と合わせて灌注

雨が降っていても 液肥灌水 灌注はします。特に定植直後の活着促進に有効です。

葉面散布は、苦土 微量元素を活着後から また節間伸長期に石灰

追肥は収穫最盛期(日量200kg/10a)カリを成分量で窒素の1.2~1.5倍

窒素だけに偏った 追肥では無く 条件に合わせて、濃度やバランスを考えましょう